

鹿児島では2月の月降水量が統計開始以降、最も少なくなりました。

○九州南部の気象官署の鹿児島で2月の月降水量が統計開始以降、最も少なくなりました。

1.九州南部の気象官署及び特別地域気象観測所の2月の月降水量が、少ない値を更新した地点名は以下のとおりです。

表1 気象官署及び特別地域気象観測所の2月の月降水量

	地点名	値(mm)	平年値(mm)	平年比(%)	これまでの1位(mm) (西暦年)	統計開始年
1位となった地点	鹿児島	23.0	112.7	20	25.4 (1887年)	1883年
2位となった地点	枕崎	38.5	114.3	34	31.0 (2004年)	1924年
3位となった地点	都城	30.0	106.2	28	23.6 (1960年)	1943年

統計期間が50年以上である9地点(宮崎、延岡、都城、油津、阿久根、鹿児島、枕崎、種子島、屋久島)を対象。

2. 記録的少雨になった要因

シベリア高気圧が強く、しばしば西日本付近に張り出し、低気圧や前線が平年より南寄り、西日本から離れた沖縄付近に位置したため、西日本では降水量がかなり少なくなったと考えられます(別紙参照)。

問合せ先：鹿児島地方気象台 季節予報担当(茶屋)
電話 099-250-9912

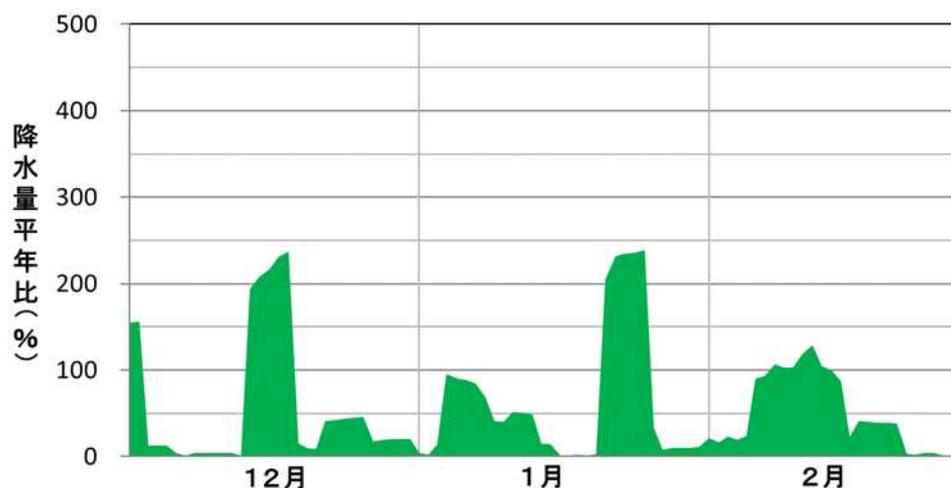


図1 九州南部の地域平均降水量平年比の時系列（5日移動平均値）
（2021年12月～2022年2月）

地域平均降水量平年比は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、九州南部は9地点（宮崎、延岡、都城、油津、阿久根、鹿児島、枕崎、種子島、屋久島）における降水量の平年比を平均して算出しています。

少雨となった要因

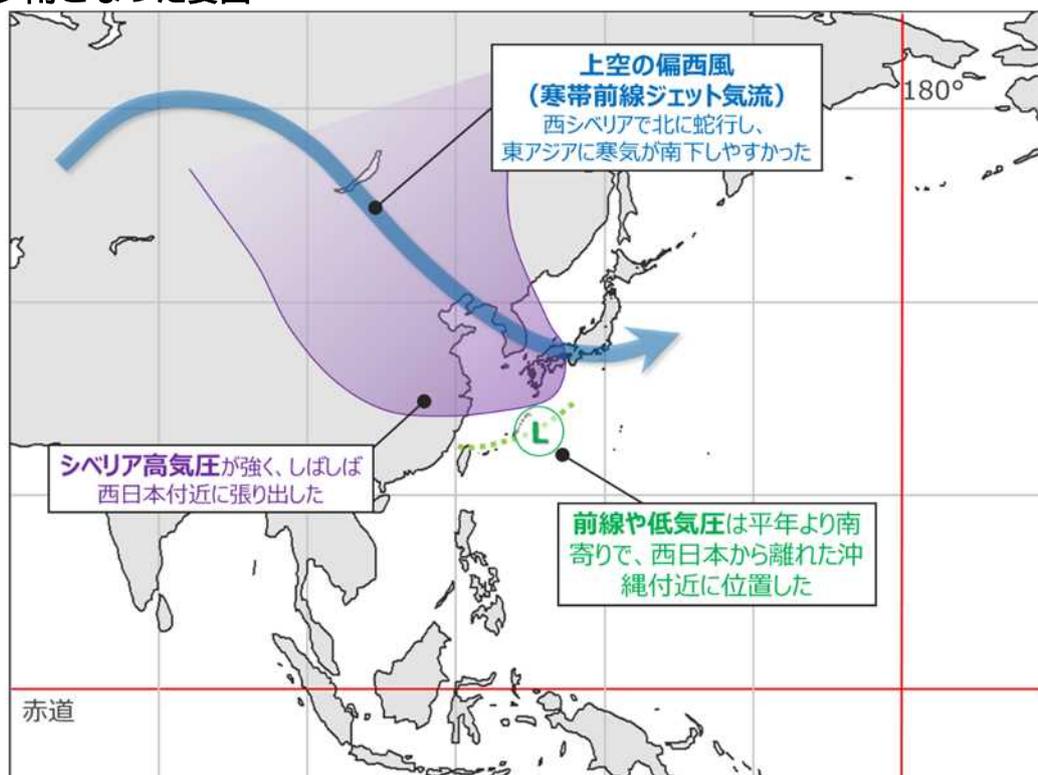


図2 2022年2月の平均的な大気の流れの模式図

- 上空を流れる偏西風は西シベリアで北に蛇行し、東アジアに寒気が南下しやすかった。
- シベリア高気圧が強く、しばしば西日本付近に張り出しました。
- 低気圧や前線は平年より南寄り、西日本から離れた沖縄付近に位置した状況が続いたからと考えられます。